

著者に聞く

「木のストロー」は、メテ項目にメモを加え、その記事の方にたくさん話題に者に送ったところ、そのメとして頂いたおかげで広める。木を出版社の方が見て、話ことができた。たぐさんのを聞きに来て下さり、出版力を借りる中で、ある記者につながついていったから、木のストローについて

出版への心境は

「編集者の方に、木のストローの企画・開発に携わったことを書き留めておいた。つたのが木の知識もものほつがいい」と言われて、コつたりの知識もないいち女今までやってきたことを手帳やケータイの写真をたどは、黒子」の立場である広りながら項目に書き出して、報担当者が（木のストロー）みた、たった1年半の出を作ったことが意外だった来事が、箇条書きで150 たそつで、作って終わり」

扶桑社刊、四六判・240頁。本体1400円＋税



読書

（聞き手・小澤美菜子）

日露戦争の日本海軍を模す投資術

「丁字戦法」でめざせ10年後の経済的自由

日本財託資産コンサルティング部 エグゼクティブマネージャー 田島浩作 著

老後の生活に自前で2000万円を貯めなければならぬ。金融庁レポートが世間をにぎわせたに注目するサラリーマン

その資産形成の1つには不動産運用がある。そつした中、著者で日本財託の資産コンサルティング部エグゼクティブマネージャーの田島浩作氏は、「私の仕事はマンションを売ることでない。当社の顧客に儲けてもらうことにある」と強調する。不動産投資とは、「打ち出の小槌」を作ること。真の経済的自由、

『不動産業界非道の年表』

投資用不動産の取り 駿河勇士 著
扱い業歴30年以上

投資用不動産を扱う不動産業者として業歴30年以上の著者（匿名）が言う。「無知は罪です。情弱投資家には悲惨な未来しか待っていません」

まい話には必ず裏があり、2018年に起きた「かぼちゃの馬車」破綻事件。女性向け新築シェアハウス「かぼちゃの馬車」を販売したスマートデイズの破産をきっかけに、融資を行っていたスルガ銀行や不動産会社の不正の実態が表面化した。その結果、それまで過剰なまでに行われていたサラリーマン投資家に対する融資貸付がストップし、不動産投資ブームは一気に冷え込んだ。スルガ銀行から不適切な融資を受けたオーナーは700人、被害額は1000億円にも上る。こうした不正融資は新築シェアハウスだけでなく、

それはあらゆる債務から解き放たれ、生活に困らない状態でいられることだとする。その投資方法については、「借金漬けとなつて資産を増やすことではない。不動産投資のオーナーのウソみたいな本当の話としている紹介するとともに、著者が推奨する投資方法「丁字戦法」を解説している。丁字戦法とは、旧日本海軍が日露戦争でバルチック艦隊を撃破した戦法

である。本書ではプロと素人の視点を交えて指南する。アーク出版刊、152頁。単行本（ソフトカバー）。本体価格1000円。

から名付けたという。まずは物件1戸を購入して早期（10年程度）でローン完済し、2戸目を1戸目の物件キャッシュフローと融資を使い購入する。2戸目も早期完済して2物件のキャッシュフローと融資で3物件目を買う。敵艦隊を横一線に並ばずに敵艦一隻の正面に立つて集中砲火を浴びせる方法をイメージし、一つの物件に複数物件の賃料収入を集中的に投じて資産の拡大を図る。本書ではプロと素人の視点を交えて指南する。アーク出版刊、152頁。単行本（ソフトカバー）。本体価格1000円。

“丁字戦法”でめざせ10年後の経済的自由

株式会社田島浩作 田島浩作 Kusunoki Tetsuo



まったくの素人でありながら不動産投資で資産を築いた3人のオーナーのウソみtain本当の話！

バチバチ10年マンション10戸、借金ゼロ！
昭和62年度のマンション2戸の副業に！
管理会社を取り替えるまでマンション管理に精通した元サラリーマン
アーク出版